

アムンディ・欧州CBファンド (ユーロコース) 〈毎月決算型〉

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／その他資産（転換社債）	
信託期間	2014年3月28日から2018年1月24日（当初：2019年7月18日）までです。	
運用方針	欧州の転換社債（CB）を主要投資対象とする「ストラクチャラ-欧州コンバーチブル（I10シェアクラス、ユーロ）」を主要投資対象とし、中長期的な投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。なお、「CAマネーブルファンド（適格機関投資家専用）」への投資も行います。原則として対円で為替ヘッジは行いません。	
主要運用対象	アムンディ・欧州CBファンド (ユーロコース)〈毎月決算型〉	ストラクチャラ-欧州コンバーチブル（I10シェアクラス、ユーロ） CAマネーブルファンド（適格機関投資家専用）
	ストラクチャラ-欧州コンバーチブル（I10シェアクラス、ユーロ）	欧州の転換社債
	CAマネーブルファンド（適格機関投資家専用）	本邦通貨表示の短期公社債
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。原則として外貨建資産への直接投資は行いません。	
分配方針	毎決算時（年12回、原則毎月18日。休業日の場合は翌営業日）に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。分配金額は、委託者が基準価額水準および市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。	

運用報告書（全体版） 第8作成期

第41期	（決算日	2017年8月18日）
第42期	（決算日	2017年9月19日）
第43期	（決算日	2017年10月18日）
第44期	（決算日	2017年11月20日）
第45期	（決算日	2017年12月18日）
第46期	（決算日	2018年1月18日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

当ファンドはこの度、上記の決算を行いました。ここに、作成期中の運用状況についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

アムンディ・ジャパン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目2番2号

お客様サポートライン 0120-202-900（フリーダイヤル）

受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページアドレス：<https://www.amundi.co.jp/>

アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）＜毎月決算型＞

■最近5作成期の運用実績

	決 算 期	基準価額 (分配落)	税 込 分 配 金	期 騰 落 中 率	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率	投 資 証 券 組 入 比 率	純資産総額
		円	円	%	%	%	百万円
第4作成期	17期 (2015年8月18日)	9,914	5	△0.0	0.7	95.1	134
	18期 (2015年9月18日)	9,606	5	△3.1	0.8	96.4	124
	19期 (2015年10月19日)	9,485	5	△1.2	0.8	96.4	121
	20期 (2015年11月18日)	9,475	5	△0.1	0.8	96.7	120
	21期 (2015年12月18日)	9,332	5	△1.5	0.8	96.7	118
	22期 (2016年1月18日)	8,640	5	△7.4	0.9	96.6	108
第5作成期	23期 (2016年2月18日)	8,333	5	△3.5	1.0	96.5	104
	24期 (2016年3月18日)	8,472	5	1.7	1.2	96.2	80
	25期 (2016年4月18日)	8,241	5	△2.7	1.3	96.0	78
	26期 (2016年5月18日)	8,242	5	0.1	1.3	96.0	78
	27期 (2016年6月20日)	7,694	5	△6.6	1.5	96.0	67
	28期 (2016年7月19日)	7,708	5	0.2	1.6	95.8	61
第6作成期	29期 (2016年8月18日)	7,549	5	△2.0	1.9	95.3	53
	30期 (2016年9月20日)	7,576	0	0.4	1.9	95.4	53
	31期 (2016年10月18日)	7,612	0	0.5	1.8	95.3	53
	32期 (2016年11月18日)	7,693	0	1.1	1.5	95.8	44
	33期 (2016年12月19日)	8,218	0	6.8	1.4	96.0	47
	34期 (2017年1月18日)	8,113	0	△1.3	0.8	96.6	36
第7作成期	35期 (2017年2月20日)	8,095	0	△0.2	0.9	96.3	34
	36期 (2017年3月21日)	8,227	0	1.6	0.9	96.3	35
	37期 (2017年4月18日)	7,941	0	△3.5	0.9	96.1	34
	38期 (2017年5月18日)	8,662	0	9.1	0.1	97.9	36
	39期 (2017年6月19日)	8,597	0	△0.8	0.2	96.9	32
	40期 (2017年7月18日)	8,929	0	3.9	0.2	97.3	31
第8作成期	41期 (2017年8月18日)	8,782	0	△1.6	0.2	96.1	23
	42期 (2017年9月19日)	9,095	0	3.6	0.3	97.4	19
	43期 (2017年10月18日)	9,019	0	△0.8	0.3	97.3	19
	44期 (2017年11月20日)	9,003	0	△0.2	0.3	97.3	19
	45期 (2017年12月18日)	8,788	0	△2.4	0.3	97.1	18
	46期 (2018年1月18日)	8,992	0	2.3	—	—	15

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。以下同じ。

■当作成期中の基準価額等の推移

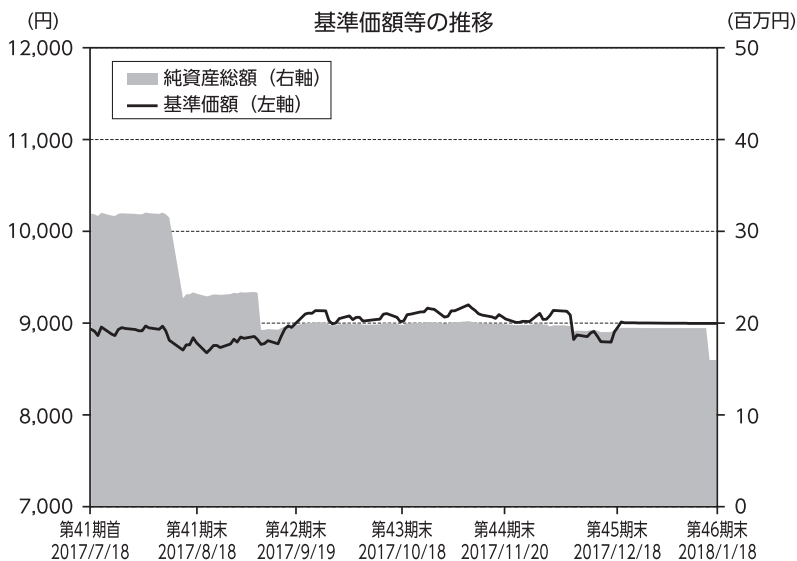
決算期	年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	投 資 信 託 証 券 率	投 資 証 券 率
				組 入 比	組 入 比
第41期	(期 首) 2017年 7月18日	円 8,929	% —	% 0.2	% 97.3
	7月末	8,926	△0.0	0.2	97.4
	(期 末) 2017年 8月18日	8,782	△1.6	0.2	96.1
第42期	(期 首) 2017年 8月18日	8,782	—	0.2	96.1
	8月末	8,843	0.7	0.2	96.2
	(期 末) 2017年 9月19日	9,095	3.6	0.3	97.4
第43期	(期 首) 2017年 9月19日	9,095	—	0.3	97.4
	9月末	9,045	△0.5	0.3	97.4
	(期 末) 2017年10月18日	9,019	△0.8	0.3	97.3
第44期	(期 首) 2017年10月18日	9,019	—	0.3	97.3
	10月末	9,070	0.6	0.3	97.4
	(期 末) 2017年11月20日	9,003	△0.2	0.3	97.3
第45期	(期 首) 2017年11月20日	9,003	—	0.3	97.3
	11月末	9,077	0.8	0.3	97.3
	(期 末) 2017年12月18日	8,788	△2.4	0.3	97.1
第46期	(期 首) 2017年12月18日	8,788	—	0.3	97.1
	12月末	8,997	2.4	—	—
	(期 末) 2018年 1月18日	8,992	2.3	—	—

(注) 騰落率は各期首比です。

アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）＜毎月決算型＞

【基準価額等の推移】

第41期首	8,929円
第46期末	8,992円
既払分配金 (税込み)	0円
騰落率	0.7%



【基準価額の主な変動要因】

上昇要因

- ① 9月から11月初旬にかけて、欧州株式市場が上昇したこと
- ② 11月初めから12月中旬を除き、欧州社債市場が上昇傾向にあったこと
- ③ 為替市場において、当作成期はユーロ高・円安となったこと

下落要因

- ① 当作成期初から8月末にかけて、欧州株式市場が下落したこと
- ② 11月初めから12月中旬にかけて、欧州株式市場が下落したこと
- ③ 12月上旬に、Steinhoffの不正会計疑惑により同社のCB価格が急落したこと

【投資環境】

＜欧州CB市場＞

当作成期の欧州株式市場は、小幅上昇しました。良好なマクロ経済データや企業の堅調な業績動向にもかかわらず、スペインのテロや北朝鮮とアメリカの軍事的緊張の高まりなどの地政学リスクが重しとなり、当作成期初は軟調なスタートとなりました。しかし9月に入ると、米国の税制改革への実現期待が再び高まったことなどから株価は上昇基調に転じました。11月初旬から当作成期末にかけては、政治リスクの存在（スペイン・カタルーニャ州の独立問題とドイツの連立政権協議の難航）、ユーロ高・米ドル安などから、利食い売りに押され下落傾向となりました。欧州債券市場は、全般的にみると金利低下（国債価格は上昇）となりました。そのため、金利はCB市場にプラス要因となりました。しかし、11月上旬は、上述の政治リスクにより、社債のスプレッド（国債との利回り格差）が拡大したことはマイナス要因となりました。このような環境下、欧州CB市場は当作成期初は軟調に始まったものの、9月から11月初旬にかけて良好なリターンを示しました。その後は株式の利食い売りを背景に弱含みで推移するなか、12月上旬に、欧州CB市場のユニバースで最大の発行体の1つに数えられるSteinhoffの不正会計疑惑により同社のCB価格が急落し、市場全体を下押ししました。この結果、当作成期の欧州CB市場は若干の下落となりました。

＜為替市場＞

当作成期初129円台で始まったユーロ／円相場は、北朝鮮情勢の緊張が懸念されると同時に米国の利上げ期待が後退し、ユーロ高・ドル安が進行したことで対円でもユーロが上昇しました。その後、ドイツ総選挙でメルケル首相率いる与党が大敗したことからユーロは下落に転じましたが、ユーロ圏の景気が好調であることからユーロの下値は堅く、英国のEU（欧州連合）離脱協議の第一歩とも言える基本合意がされたことが後押しとなった他、ドイツ国債発行計画で30年債が増発となると発表されたことから金利上昇期待でユーロは上昇しました。当作成期末付近に日銀による超長期債の買入減額を受けて一時円高になる局面があったものの、ECB（欧州中央銀行）議事録要旨の内容がタカ派ととらえられてユーロ高となり、135円台で当作成期末を迎えました。

＜日本の短期国債市場＞

当作成期の短期国債市場では、日銀の金融緩和策が金利低下圧力として働くなか、海外投資家からの需要の変化により乱高下しました。日銀によるマイナス金利政策のもと、TDB（国庫短期証券）3ヵ月物の利回りは-0.11%近辺の水準で始まりしました。11月下旬にかけて海外投資家によるTDBへの買い需要が高まり利回りは-0.25%まで低下したものの、その後は落ち着きを取り戻し-0.15%近辺で当作成期末を迎えました。

【ポートフォリオ】

＜当ファンド＞

当ファンドは、欧州の転換社債を主要投資対象とする円建の外国籍投資信託「ストラクチャー欧州コンバーチブル（I10シェアクラス、ユーロ）」と、円建の国内籍投資信託「CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）」を投資対象とし、中長期的な投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行いました。当ファンドは「ストラクチャー欧州コンバーチブル（I10シェアクラス、ユーロ）」に90%以上投資することを基本としていることから、この運用の基本方針に従い、当該投資信託を高位に組み入れました。ただし、書面決議にて当ファンドの繰上償還が決定した2017年12月19日以降は、組入有価証券を売却し現金化を進めました。
(アムンディ・ジャパン株式会社)

アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）〈毎月決算型〉

〈ストラクチャー欧州コンバーチブル（I10シェアクラス、ユーロ）〉

当作成期は、発行市場での起債額が比較的小規模にとどまりました。そうしたなか、当ファンドは、2026年満期のDeutsche Wohnenや2023年満期のElisなどの新発債を購入しました。流通市場では、Unibail、Ingenicoなどを購入しました。また、Steinhoffは12月の急落により基準価額のマイナス要因となりましたが、価格がやや持ち直したところでウェイトを引き下げました。2017年前半に価格が大幅に上昇していた、Siemens、STM、Prysmian等の銘柄を利益確定のため一部売却しました。また、Parpublica/GalpやCaixaBankは有利な条件で償還されました。この他、当ファンドはTechnipやTelecom Italiaといった銘柄において、コンバクシティの利点を十分に活かすための取引を行いました。なお、「アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）〈毎月決算型〉」の繰上償還が決定した2017年12月19日以降は、組入有価証券を売却し現金化を進めました。

(アムンディ アセットマネジメント)

〈CAMマネープールファンド（適格機関投資家専用）〉

当作成期、主として6ヵ月以内に償還を迎える地方債への投資により、安定した収益の確保を目指して運用を行いました。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

【分配金】

収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます（分配原資の内訳につきましては、後記の「分配金のお知らせ」をご覧ください。）。なお、収益分配に充てず、信託財産内に留保した収益については、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

【今後の運用方針】

〈当ファンド〉

当ファンドは、2017年12月19日に書面決議にて繰上償還が決定したため、組入有価証券を全売却しており、現在は解約金、償還金のお支払いに備えてコール・ローン等の短期金融資産を中心とした安定運用に切り替えております。

(アムンディ・ジャパン株式会社)

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第41期～第46期 (2017年7月19日 ～2018年1月18日)		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	49円 (14) (34) (1)	0.550% (0.152) (0.381) (0.016)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (印 刷 費 用) (そ の 他)	7 (7) (0)	0.082 (0.082) (0.000)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	56	0.632	

期中の平均基準価額は8,993円です。

- (注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。
(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
(注4) 各項目の費用は、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
(注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

■ 当作成期中の売買及び取引の状況（2017年7月19日から2018年1月18日まで）

投資信託受益証券、投資証券

決 算 期		第 41 期 ～ 第 46 期			
		買 付		売 付	
		口 数	買 付 額	口 数	売 付 額
国内	CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）	—	—	50,000	50
外国	(ルクセンブルク) ストラクチュラ-欧州コンパチブル (I10 シェアクラス、ユーロ)	—	—	3,550	30,993

- (注1) 金額は受渡し代金です。
(注2) 単位未満は切捨てです。

■ 利害関係人との取引状況等（2017年7月19日から2018年1月18日まで）

当作成期中における利害関係人との取引等はありません。

- (注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）＜毎月決算型＞

■組入資産の明細（2018年1月18日現在）

有価証券の組入はありません。

（前作成期末：2017年7月18日）

(1) 国内（邦貨建）投資信託受益証券

銘	柄	第7作成期末 (第40期末)	
		口	数
CAマネープールファンド（適格機関投資家専用）			50,000

（注）単位未満は切捨てです。以下同じ。

(2) 外国（邦貨建）投資証券

銘	柄	第7作成期末 (第40期末)	
		口	数
(ルクセンブルク) ストラクチュラ-欧州コンバーチブル (I 10シェアクラス、ユーロ)			3,550

■投資信託財産の構成（2018年1月18日現在）

項	目	第8作成期末(第46期末)	
		評価額	比率
		千円	%
	コール・ローン等、その他	19,448	100.0
	投資信託財産総額	19,448	100.0

（注）金額の単位未満は切捨てです。

アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）＜毎月決算型＞

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	(2017年8月18日)	(2017年9月19日)	(2017年10月18日)	(2017年11月20日)	(2017年12月18日)	(2018年1月18日)現在
	第 41 期 末	第 42 期 末	第 43 期 末	第 44 期 末	第 45 期 末	第 46 期 末
(A) 資 産	23,218,364円	19,975,511円	19,808,719円	19,772,217円	19,006,601円	19,448,838円
コール・ローン等	886,274	494,856	506,824	513,922	535,031	19,448,838
投資信託受益証券(評価額)	50,320	50,315	50,315	50,315	50,310	—
投資証券(評価額)	22,281,770	19,430,340	19,251,580	19,207,980	18,421,260	—
(B) 負 債	31,782	27,382	26,915	32,812	32,351	3,520,008
未 払 解 約 金	—	—	—	—	—	3,483,859
未 払 信 託 報 酬	28,456	20,704	17,216	19,675	16,298	17,757
未 払 利 息	2	1	1	1	—	47
そ の 他 未 払 費 用	3,324	6,677	9,698	13,136	16,053	18,345
(C) 純資産総額(A-B)	23,186,582	19,948,129	19,781,804	19,739,405	18,974,250	15,928,830
元 本	26,401,523	21,933,374	21,933,374	21,924,225	21,591,117	17,714,130
次 期 繰 越 損 益 金	△ 3,214,941	△ 1,985,245	△ 2,151,570	△ 2,184,820	△ 2,616,867	△ 1,785,300
(D) 受 益 権 総 口 数	26,401,523口	21,933,374口	21,933,374口	21,924,225口	21,591,117口	17,714,130口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,782円	9,095円	9,019円	9,003円	8,788円	8,992円

(注記事項)

作成期首元本額	35,762,175円
作成期中追加設定元本額	336,543円
作成期中一部解約元本額	18,384,588円

■損益の状況

項 目	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
	自2017年7月19日 自2017年8月19日 自2017年9月20日	自2017年8月19日 自2017年9月19日 自2017年10月18日	自2017年8月18日 自2017年9月19日 自2017年10月18日	自2017年10月19日 自2017年11月21日 自2017年12月19日	自2017年10月19日 自2017年11月21日 自2017年12月18日	自2017年11月20日 自2017年12月18日 自2018年1月18日
(A) 配 当 等 収 益	45,745円	34,788円	32,673円	32,658円	32,150円	△ 1,105円
受 取 配 当 金	45,848	34,877	32,700	32,692	32,175	—
支 払 利 息	△ 103	△ 89	△ 27	△ 34	△ 25	△ 1,105
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 399,901	671,750	△ 178,760	△ 43,705	△ 478,442	380,975
売 買 益	124,629	681,950	—	—	1,015	380,975
売 買 損	△ 524,530	△ 10,200	△ 178,760	△ 43,705	△ 479,457	—
(C) 信 託 報 酬 等	△ 31,780	△ 24,057	△ 20,238	△ 23,114	△ 19,216	△ 20,050
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	△ 385,936	682,481	△ 166,325	△ 34,161	△ 465,508	359,820
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 2,652,478	△ 2,521,074	△ 1,838,593	△ 2,003,998	△ 2,006,848	△ 2,026,492
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 176,527	△ 146,652	△ 146,652	△ 146,661	△ 144,511	△ 118,628
(配当等相当額)	(18,458)	(15,334)	(15,334)	(15,352)	(15,144)	(12,446)
(売買損益相当額)	(△ 194,985)	(△ 161,986)	(△ 161,986)	(△ 162,013)	(△ 159,655)	(△ 131,074)
(G) 計 (D+E+F)	△ 3,214,941	△ 1,985,245	△ 2,151,570	△ 2,184,820	△ 2,616,867	△ 1,785,300
(H) 収 益 分 配 金	0	0	0	0	0	0
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△ 3,214,941	△ 1,985,245	△ 2,151,570	△ 2,184,820	△ 2,616,867	△ 1,785,300
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 176,527	△ 146,652	△ 146,652	△ 146,661	△ 144,511	△ 118,628
(配当等相当額)	(18,458)	(15,334)	(15,334)	(15,352)	(15,144)	(12,446)
(売買損益相当額)	(△ 194,985)	(△ 161,986)	(△ 161,986)	(△ 162,013)	(△ 159,655)	(△ 131,074)
分 配 準 備 積 立 金	710,603	627,077	639,512	648,770	652,089	536,792
繰 越 損 益 金	△ 3,749,017	△ 2,465,670	△ 2,644,430	△ 2,686,929	△ 3,124,445	△ 2,203,464

(注1) (B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。

(注2) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注3) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

アムンディ・欧州CBファンド（ユーロコース）〈毎月決算型〉

■分配金のお知らせ

当作成期の収益分配金につきましては、基準価額水準および市況動向等を勘案した結果、見送りとさせていただきます。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。
- 分配金は、計算期間中に発生した収益（経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益）を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかさった場合も同様です。

【分配原資の内訳】

(単位：円・1万口当たり・税込み)

項目	第41期	第42期	第43期	第44期	第45期	第46期
	(2017年7月19日 ～2017年8月18日)	(2017年8月19日 ～2017年9月19日)	(2017年9月20日 ～2017年10月18日)	(2017年10月19日 ～2017年11月20日)	(2017年11月21日 ～2017年12月18日)	(2017年12月19日 ～2018年1月18日)
当期分配金	—	—	—	—	—	—
(対基準価額比率)	(—%)	(—%)	(—%)	(—%)	(—%)	(—%)
当期の収益	—	—	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	276	292	298	302	309	310

(注1)「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

(注2)「当期の収益」「当期の収益以外」は小数点以下切捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

《お知らせ》

- ・当ファンドは、2017年11月27日現在の受益者の皆さまを対象に、信託終了（繰上償還）にかかる書面決議を行いました。その結果、議決権の3分の2以上の賛成を得られたため、2018年1月24日に繰上償還することが決定しました。